

## ワークショップWS2-5

### 間歇型一酸化炭素中毒による認知機能障害と錐体外路症状に対する高気圧酸素治療の有効性（一酸化炭素の洗い出し効果）

陣上直人<sup>1,2)</sup> 新田孝幸<sup>2)</sup> 吉原雄二郎<sup>3)</sup>

小林勝哉<sup>2)</sup> 石黒義孝<sup>1)</sup> 趙 晃濟<sup>1)</sup> 柚木知之<sup>1)</sup>

村井俊哉<sup>3)</sup> 高橋良輔<sup>2)</sup> 大鶴 繁<sup>1,4)</sup>

- 1) 京都大学医学部附属病院 初期診療・救急科
- 2) 京都大学医学部附属病院 脳神経内科
- 3) 京都大学医学部附属病院 精神科神経科
- 4) 京都大学医学部附属病院 高気圧酸素治療センター

#### 【背景】

間歇型一酸化炭素(CO)中毒に対する高気圧酸素治療(HBO)の有効性は明らかではない。間歇型CO中毒患者に複数回HBOを実施し認知機能、画像検査所見をフォローアップしHBOの有効性を検証した。

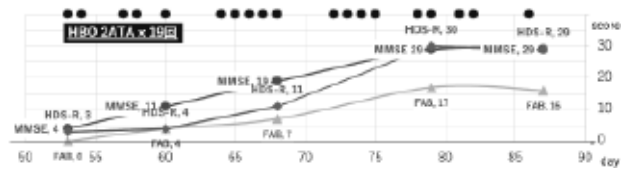
#### 【症例】

40代女性、自動車で炭火を焚いて倒れているところを発見され救急搬送された。搬送時GCS E2V4M6で、動脈血液ガス分析でCO-Hb 9.5%に上昇していた。HBO (2.8ATA, 60分)を実施し意識レベルの改善を認めた。日常生活に復帰したものの、1ヶ月後より受け答えが困難となり介護を要した。脳MRIで淡蒼球壊死、深部白質病変を認めたため、53日目よりHBO (2.0ATA, 60分)を計19回実施した。間歇型CO中毒に対するHBO実施前後でHDS-R 3→29/30, MMSE 4→29/30, FAB 0→16/18と改善した。注意力低下、脱抑制など広範な大脳機能障害や歩行障害などの錐体外路症状は著明に改善し職場復帰を果たした。HBO治療期間中、MRIでの改善は認めなかったが、FDG-PETでは大脳皮質の集積の改善を認めた。288日目MRIでは淡蒼球の空洞上病変は縮小し、白質病変の不明瞭化を認めた。診察上も脳神経症状の再燃を認めず、職場勤務を継続している。

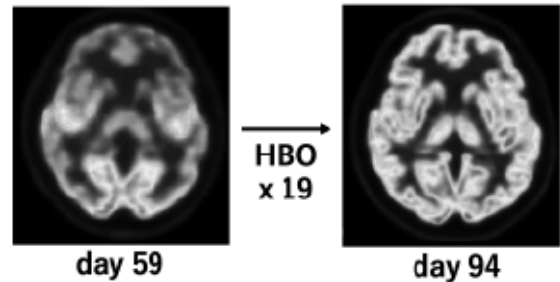
#### 【考察】

間歇型CO中毒に対するHBOの効果は実証されていないが、本症例においては50日を過ぎてからでもHBOによる大脳に蓄積したCOに対する洗い出し効果があったと考えられる。

### 間歇型CO中毒にHBO 2ATA 19回実施 HDS-R 3→29/30, MMSE 4→29/30, FAB 0→16/18



### FDG-PET 大脳皮質の集積の改善



### MRI 長期的には淡蒼球・白質病変は縮小

